Kyorin

ミミとハナとノドの健康読本

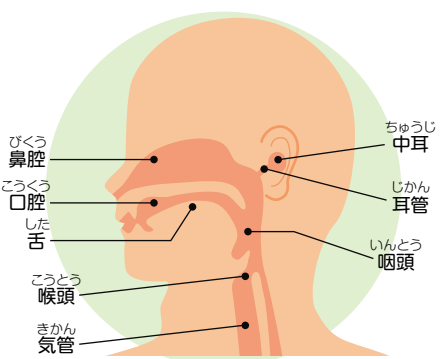
〈監修〉かみで耳鼻咽喉科クリニック 院長　上出洋介

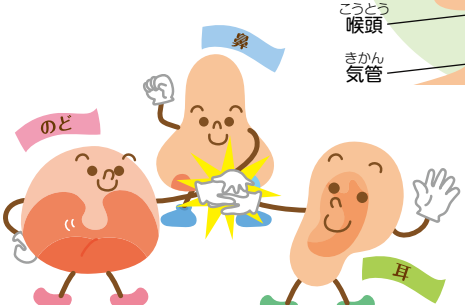
耳・鼻・のどは
みんなつながっています。

口は食べ物の入口、鼻は空気の入口であり、ノドという交差点を通って食道と気管に連絡しています。耳は音の入口であり、耳管という部分でノドに連絡しています。

口、鼻、耳はノドを中心につながっており、病気の時にお互いが影響します。

病気にならないように口や鼻から侵入してくる細菌やウイルスをはね返す防衛装置が鼻、ノドにあります。いつも健康に注意して防御装置が十分活躍できるようにすることが大切なのです。





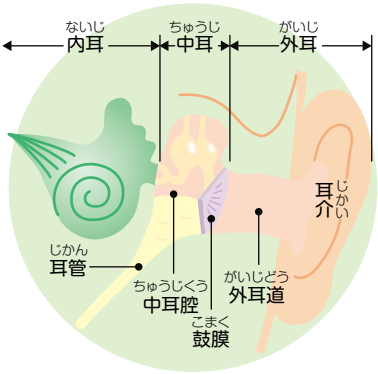
耳

耳の病気は早期治療が決め手

いろいろな耳の病気と治療方法

急性中耳炎

主にかぜに引き続いて起こる細菌性、ウイルス性の中耳炎です。
急に耳が痛くなって気づくもので、発熱や難聴が見られます。
しかし、乳児では不機嫌や夜泣き、原因不明の熱や耳いじりなどが主な症状です。
症状が悪化すると鼓膜が破れて耳だれが出てきます。



治療方法

抗菌薬や炎症を抑える薬を服用します。乳幼児では鼻水の吸引や鼻をよくかむことが基本となります。症状がなくなっても安心しないで、お医者さんに治ったことを確認してもらってください。中耳炎が長く残ることがあります。

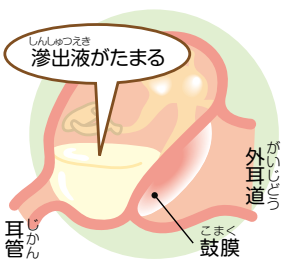
慢性中耳炎

多くは繰り返す急性中耳炎が原因となって、鼓膜に穴が残り、耳だれが出た状態が続きます。

治療方法

耳だれに関しては急性中耳炎と同じように抗菌薬や炎症を抑える薬を服用しますが、最終的には鼓膜の穴は手術で塞ぎます。

滲出性中耳炎



中耳腔に炎症が起こり、液体（滲出液）がたまる病気です。そのために聞えが悪くなったり、耳がつまった感じになりますが、痛みも熱もないのが特徴です。アデノイド（6p参照）や慢性副鼻腔炎（ちく膿症）があるとかかりやすく、また、急性中耳炎のあとになることもあります。
呼びかけに対して反応が鈍かったり、テレビの音を大きくする場合は、滲出性中耳炎が疑われます。

治療方法

治療は耳管の通気をよくすることが基本になります。中耳にたまった滲出液を出しやすくする薬を飲んだり、抗菌薬を飲むこともあります。また、鼻から耳に空気を送ったり、鼓膜を少しだけ切って滲出液を吸引することもあります。
耳の治療だけではなかなか治らないので、原因となっている鼻やのどの病気と一緒に治療することが大切です。

鼻

鼻の病気は根気で退治

いろいろな鼻の病気と治療方法

鼻炎

ウイルス感染が原因となって起こるいわゆる“鼻かぜ”を急性鼻炎といいます。
くしゃみ、鼻みず、鼻づまりの鼻症状とせき、発熱やのどの痛みなどの症状を起こします。
鼻みずはさらさらした状態から粘りのある状態へ変化していきます。
急性鼻炎を繰返したり、長引かせたりすると鼻の粘膜は常に腫れた状態が続き、慢性鼻炎になります。
症状は粘りのある鼻みずと鼻づまりですが、かみきれなくなった鼻みずがのどの奥に落ちて行ったり、多量の鼻みずや鼻づまりのために口呼吸が多くなります。

治療方法

急性鼻炎では、全身の安静と温暖が大切です。抗ヒスタミン薬や鼻をかみやすくする粘液溶解薬、症状によっては解熱消炎鎮痛剤や抗生物質で治療します。
慢性鼻炎の治療は、粘液溶解薬で鼻みずや痰を出やすくしたり、鼻粘膜の腫れを抑える点鼻の血管収縮薬などで鼻づまりを解消します。

アレルギー性鼻炎

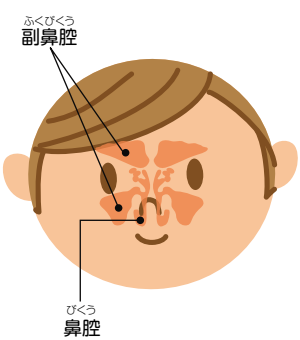
アレルギー性鼻炎は、何らかの原因による鼻のアレルギー反応です。部屋のほこり、ダニ、カビ、ペット(犬、猫、小鳥)の毛などが原因(抗原)となる通年性アレルギー性鼻炎、スギやブタクサなどの花粉が原因となる花粉症(季節性アレルギー性鼻炎)に分けられます。症状は、くしゃみ、さらさらした鼻みず、鼻づまりです。花粉症では目の症状(かゆみ、涙目)もあらわれます。

治療方法

治療の基本は、抗原を取り除くか避けることです。
抗ヒスタミン薬や抗ロイコトリエン薬といったアレルギー反応を抑える薬(飲み薬、点鼻薬)で症状を軽くすることができます。また、花粉症では花粉が飛び始める前から薬を飲み始めて、花粉が飛んでいる間の症状を軽くする初期療法という治療法がありますのでお医者さんに相談してみましょう。

副鼻腔炎

副鼻腔に炎症が起こり、膿性の黄色いにおいのある鼻みずがたまる病気です。鼻みずがあふれ、のどの奥に落ちるのが特徴です。
ウイルスや細菌感染によって起こるものを急性副鼻腔炎、3ヵ月以上続く場合を慢性副鼻腔炎といいます。一般にちく膿症といわれる病気です。
頭が重く、嗅覚も悪くなり、集中力、仕事や勉強の能率が悪くなります。



治療方法

膿性の鼻みずを排泄しやすくする粘液溶解薬や症状によっては抗菌薬を内服します。また鼻への直接的な治療法として、鼻みずの吸引や、ネブライザーという器具を使って抗菌薬や炎症を抑える薬を霧状にして吹き付ける方法があります。

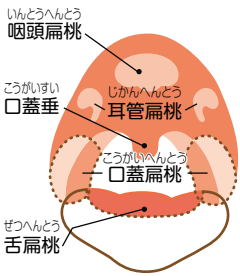
のど

毎日のうがいが大切

いろいろなのどの病気と治療方法

咽頭・扁桃炎

ウイルスや細菌が原因となり急な発熱とともに起こるのが急性咽頭・扁桃炎です。
症状は、38度以上の発熱、せき、のどの腫れや痛みです。乳幼児であればよだれが増えます。
このような急性の症状が完全に治りきらずにいると慢性扁桃炎となります。微熱で体がだるい、飲み込みづらい感じが続きます。



治療方法

ウイルス感染が多いので対症療法と安静が大切です。溶連菌感染であれば抗菌薬を内服します。慢性の場合は、手洗いとうがいをするなど日常生活面の工夫をします。

アデノイド（咽頭扁桃）肥大

アデノイドは発育とともに大きくなり4～6歳で最も大きくなり、その後、自然に小さくなります。しかし、それが異常に大きくなりすぎると鼻の奥や耳管とのどのつながりをふさいでしまうため、副鼻腔炎や滲出性中耳炎が長引く原因になります。
症状は鼻づまりやそれに伴う口呼吸、鼻声、いびきなどです。かぜが治らない、口呼吸をしていると思ったらアデノイド肥大を疑いましょう。

治療方法

症状がひどすぎる場合は、アデノイドを取る方法もあります。

病医院名

キョーリン製薬

作成年月：2020.3
ICBS0011